

# おい書館

No. 7

## 町田中央図書館

### 訪ねて

町田市立町田中央図書館は、JR・小田急それぞれの町田駅から歩いて数分のところに駅前型図書館として、一九九〇年十一月に開館しました。ホテルと併設しており、四、五、六階を図書館が使用しています。緩やかなカーブを描くドーム状の大きなガラス扉を入ると、瓶越探武の彫刻「笛を吹く少年」が迎えてくれました。瓶の口が狭まるように、奥に上り下り二基のエスカレーターが動いています。平日の午後にもか、わらず、流れるような人の動きに目を見張りました。

私たち八人を迎えて、熱心に案内して下さった松野泰任担当主査の言葉を紹介します。「市民全員が利用之ける図書館を目指しました。町田市の人口三十六万人に対して、五二六二席とは狭いです。せめて一万席は欲しいです。一億四千万円が図書購入費、日曜日是一万冊以上の貸出しがあります。等々……」

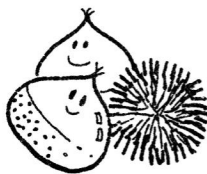
### 四階へ



まず四階から見ていきましょう。床は

フローリングですが、靴音が吸い込まれるように音がしません。左手のメインカウンターのほか、五、六人の人が忙しそうに働いています。ずらっと並んだ書棚は文学コーナー。間隔は車いすが行き来できるようにと、五ヵあります。ここには検索コーナーが三ヶ所あって、自分と読みたい本が探せます。こどものひろば、たからじま、おはなしのへや、ここは子どもとの空間です。絨毯に寝ころがっても、履き違えになって本を読んでもいいのです。隣接して児童図書研究コーナーがあり、この日も熱心に話しているグループを見かけました。広いガラス窓に面してゆったり広がった空間、憩いの広場です。低い壁面に並んだ書棚には、雑誌四百誌、新聞二十五紙、ソファに身を流めて読書に耽る人々。一角に喫茶コーナーがあり、軽い読書を負った人々がここに働いています。

### 五階へ



五階へは、エレベーターで行きましょう。一隅に盲人用の杖があります。先端のボタンを押すと、床に埋め込まれた磁

気誘導システムが作動して、目的の場所まで安全に行くことが出来ます。この階には、対面朗読室が二室、録音室が二室、点字ワープロなどを備えた妻仕ルーム、障子着サービスコーナーがあります。おや、カバンやナツラザックを背負った若者たろの行く先は……？・ヤングアタルトコーナーです。ここには、占い・音楽・映画・そしてマンガなど若者が好みそうな本がいっぱい。AVコーナーには、CD一万枚、カセット二千本、ビデオ五千本、しかもこのビデオを、一人で、或いは二人でソファにゆったり座って楽しむことが出来るコーナーがあります。この日は、一人用がまだ一席空いていると出ていました。勿論貸出しもするので、このサービスカウンターは本当に忙しそうです。実用書から専門書まで幅広く揃えた一般書の書棚、レファレンスコーナー。キヤレル（雑書）を遮断した調べもの用の部

屋）、地域資料コーナー。そして、和室がありました。足を投げ出したり、壁に背をたせたりと、寛ろいだ姿勢と本を読んでいる人々、何もしない人もいます。隅の方には声をひそめておしゃべりを楽しんでいる二人連れがいます。

## 六階へ

六階には、事務室と書庫。二十四万冊が収納されていますが、すぐに手帳と、廃棄せざるをえない図書に悩んでいます。百人収容のホール。週に三本の映画と講演会などが行われています。ビデオ編集室・自分のビデオを監督気分て自由に編集でき



る機械が数台あります。読書室が三十八席。

時計の針はもう五時を指しているのに、人の流れは減っていません。火、金は八時まで閉館しているのです。

市民の誰むか利用とできる図書館を目指す豊原の松野主査の言葉がよくわかりました。しかし、これからの仕事もたくさんあります。



「図書館協会を作っても、下手をするとうまく形骸化します。それより、皆さんのような熱心な人たちが大事なんです。」と松野主査に励まされて帰ってききました。

(渡辺)

発行 「おい、図書館」  
連絡先 青木 和子

松戸市総合八三〇、六〇  
〇四七三(六七)五三八四